No.188 1996. 1

東京大学低温センター

# 低温センター･ニュース

TEL. 2851,2852(事務室), 2853(技官室)

## 新年のご挨拶

低温センター長 鹿児島 誠一

（教養学部 基礎科学科第一）

新年おめでとうございます。昨年は大事件が相次ぎ、低温センターでも神戸方面の低温施設の状況の調査、危険物の管理の見直しなどの対応に追われました。幸い、その後はセンターにとってこれといった問題は起こらず、穏やかな年始を迎えることが出来ました。

今年私が受け取った年賀状では、リストラに触れたものが目立ちました。「突然の出向を命じられた」「管理職としての自分自身を含めて、リストラで大変だった」など、それぞれ大波にもまれている様子がうかがえます。なかには、「予想外に早く、希望の研究所に戻れた」という卒業生もいます。この人は、英語の達人として重宝がられていた人ですが、最近の新聞によると、その会社は今年からコンピュータと英語の出来る人を採用するとのことで、なるほどそうだったのかと合点しました。

東京大学でも数年前から大規模なリストラが始まっています。今年は柏キャンパス計画が本格的に始動し、また駒場（第二）キャンパスの整備計画も見えてきました。低温センターは、柏キャンパスに支所を設けることを計画しており、今年は具体的計画を固める必要があります。本郷キャンパスでは理学部、工学部の改築･改修工事が進行しておりますが、これによって、サブセンターの維持管理、寒剤の供給など、研究･教育に支障を来さないよう、万全の態勢をとらなければなりません。

低温センターの大事な任務の一つは、研究･教育に役立てるための開発研究です。共同利用機器は、関係方面のご支援のおかげで、今年度にある程度の充実が図られましたが、これを活用するだけでは不十分です。低温実験を必要としながら手を出しにくい分野の研究者に、実験技術を開発して提供することも、低温センターの役目です。

低温センターでは、ヘリウムと窒素を安定して供給するだけではなく、このような仕事にも取り組んでいきます。皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

# ○液体窒素容器を購入するときのお願い

最近、自動加圧型液体窒素容器（自加圧型容器とも呼ばれている）を購入する研究室が増えているようですが、メーカーによっては、センターでの供給が困難な構造になっている容器もあります。同容器を購入する際は、事前に低温センター技官室にご相談ください。

尚、センターで配達できる容器は、液体窒素の利用内規にも書いてあるように内容積50ﾘｯﾄﾙ以下の容器です。

# ○ヘリウムガス回収率

平成7年12月分

| | 12/1在庫 | 1/5在庫 | 供給量 | 回収量 | 損失量 | 回収率(%) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 理サブ | 421.0 | 414.4 | 1091.3 | 969.0 | 129.0 | 88.3 |
| エサブ | 207.6 | 141.2 | 1054.9 | 861.6 | 193.0 | 76.8 |
| 先端研 | 13.8 | 4.5 | 0.0 | 7.3 | 2.0 | 78.3 |
| 浅野第一 | 87.6 | 118.2 | 20.3 | 47.1 | -57.0 | ー |
| 分生研 | 30.0 | 32.5 | 20.3 | 7.8 | 10.0 | 43.6 |
| 農芸化学 | 186.8 | 120.7 | 0.0 | 71.0 | -5.0 | ー |
| 総合試験所 | 176.8 | 55.3 | 728.7 | 529.0 | 321.0 | 62.2 |
| システム | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | ー |
| 備 考 | ☆回収率 ＝ 回 収 量 ／ (供給量＋12/1在庫)ー( 1/5在庫)<br>☆回収ガスは純度100%として回収量、回収率を計算 | | | | | |

---

*☆ センターニュースに関するお問い合わせは、内線2853まで☆*